

令和4年度 県立神戸鈴蘭台高等学校 学校評価（目標と評価方法）

1 学校経営のテーマ

【教育方針】

本校は、鈴蘭台高校の校訓である「優雅」と鈴蘭台西高校の校訓である「創造」に、新たに「共生」を加えて校訓とし、これらの校訓のもと、自主自律の精神に富んだ人づくりをめざしている。

また、神戸市内の県立学校として唯一国際関係コース（国際コミュニケーションコース）を有する本校は、グローバル化の進む社会において、世界的な視野とコミュニケーション能力を持ち、多文化共生社会の実現をめざしつつ、国際社会で活躍できる人づくり、変化の激しい社会においても、幅広く活躍し、社会に貢献できる人材の育成をめざしている。

このような人づくりを実現するために、以下のような教育方針を定める。

- (1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。
- (2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。
- (3) 国際理解、多文化理解を深め、世界的な視野を持った人づくりを推進する。
- (4) 保護者・地域等との連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。

2 本年度の重点目標

第3期「ひょうご教育創造プラン」を踏まえ、次の5項目を重点目標とする。

- (1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。
 - ア 生徒が夢や希望を持ち、将来の目標を適正に定められるよう、キャリア教育及び進路指導のさらなる充実を図る。
 - イ 生徒の基本的な生活習慣、基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を図る。
 - ウ 将来の進路目標を実現し、社会で活躍し貢献できる人づくりを進めるため、基礎的・基本的な知識に加え、それを活用する思考力・判断力・表現力・主体的に学習に取り組む意欲・態度などの確かな学力の充実を図る。
- (2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。
 - ア 体験活動を通して自ら学び、考え、体得する教育に力を入れ、時代を越えて変わらない倫理観や公共心の育成など心の教育の充実を図るとともに豊かな人間性を育成する。
 - イ 校内の緑化と美化に励む伝統を継承し、本校の恵まれた自然環境の中で、生徒の豊かな情操を養う。
 - ウ 生命の尊さや、他を思いやる心を育て、防災・安全教育を充実させる。
- (3) 国際理解、多文化理解を深め、世界的な視野を持った人づくりを推進する。
 - ア 国際理解教育を充実させ、世界の人々に信頼され、国際社会の一員として責任を果たせるよう、国際性豊かな共生の心を育む。
 - イ 特に国際コミュニケーションコースにおいては、英語（韓国語、中国語）によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図るとともに、さまざまな分野において国際舞台で活躍できる人材を育成する。
- (4) 保護者・地域等との連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。
 - ア 生徒の地域社会の活動への参加及び地域住民の本校教育活動への参加など、開かれた学校づくりを積極的に進め、家庭・地域社会と互いに連携しながら、いきいきとした魅力ある教育活動を展開する。
 - イ 自主自律の精神に富む人づくりに努め、明朗・闊達な精神と文化を尊ぶ校風の継承と発展を図るとともに、時代の進展や社会環境の変化に対応した学校づくりに取り組む。
- (5) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実を図る。
 - ア 本校の教育目標の達成をめざし、各教職員が学校組織の一員として緊密に連携し、協力しながら、それぞれの課題に取り組む。
 - イ 高大連携、高大接続改革、新学習指導要領など、教育環境の変化に対応し、生徒たちの夢をかなえる教育の充実を目指し、学校単位をはじめ、個々の教員においても積極的な研修の取組みを推進する。

3 総合的な自己評価及び次年度に向けた改善点

- (1) 授業に関しては、今年度、特に1年生にBYODが導入されたことにより、全員タブレット(ipad)を活用しての授業となり、わかりやすい授業・ICTを活用した授業改善が進んだ。2・3年生を含めて、7割の生徒がICTを効果的に活用しており、8割の生徒が授業内容をおおよそ理解し、集中して授業を受けられている状況である。今後、1年生を中心にタブレットによる小テストの活用や、課題および授業の指示を効果的に行い、これまで以上にICT環境を効果的に活用した授業力向上、そして、新たな観点別評価を意識した指導と評価の一体化を旨とする授業改善に取り組んでいく。また、本校に入学して良かったと考えている生徒が9割いることは大変素晴らしい結果として受け止め、この結果に甘んじることなく、教職員一同、より一層の教育活動の充実に取り組んでいく。
- (2) 「総合的な探究の時間」では、特に2年生で高大連携を軸としたゼミ形式の大学教員による指導助言を取入れた探究活動に取り組んでいる、これにより、深い学びを通じて、将来の在り方生き方を考えさせ、キャリア教育の充実にもつながっている。結果として、学年が上がるほどに進路について計画的に情報を集めようとする意識が高くなっている。また、7割の生徒が本校のキャリア教育プログラムや「総合的な探究の時間」などが進路を考える上で役立ったと考えており、全ての生徒のキャリアプランニング能力の育成を充実させるために、中学校からのキャリアパスポートやキャリアノート、Classiの機能を効果的に活用し、生徒が主体的に3年間を通じた進路実現ができるように、体系的・組織的な探究活動や進路ガイダンスなどのキャリア教育の充実を努めていく。
- (3) グローバル教育については、国際コミュニケーションコースを核として、「土曜日英会話教室」「韓国・アメリカとのオンライン授業」「短期語学研修代替プログラム(イングリッシュキャンプ)」「神戸市外大訪問やJICA訪問」「模擬国連の見学」など各種体験プログラムを充実させている。普通科クラスの生徒を含めて6割の生徒がグローバルな人づくりのためのプログラムが充実していると考えているが、今後は、コースの生徒だけでなく、普通科クラスを含めた全ての生徒が参加し体験できるプログラムの検討が課題である。
- (4) ウイズコロナの中で、2年生の総合的な探究の時間での「北区活性化プロジェクト」における北区まちづくり課との連携、鈴蘭台駅でのフラワープロジェクト等の実施、また和太鼓部やダンス部による各種地域行事の参加や、編集部による鈴高新聞、鈴高miniプレスによる広報など、文化部を中心に多くの生徒が地域貢献活動に取り組んだ。その様子はHPで校外に広報するとともに、新たに学校通信「神戸鈴蘭台 Go Global 通信」を発行して校内に掲示することで活動の見える化を図った。今後、全ての生徒が参加し、さらなる地域貢献や体験活動のできる機会の充実を図っていく。
- (5) 「通級指導教室」実践校として2年目を迎えたが、学識経験者による教員研修や特別支援教育の視点で配慮が必要な生徒についての研修を実施することで、学校全体で共通理解を図る体制が整った。今後は、通級指導教室(アソシエーションルーム)の充実と生徒理解に向けた研修のさらなる充実を図っていく。

4 学校関係者評価総括

概ね上記の4つの教育方針については評価できる。特に、学校評価アンケートで「本校に入学して良かった」と回答した生徒が9割に達していることは特筆すべき事である。また、授業でのICT活用が進んでいることや、BYODによる1年生全員がタブレットを使用して、小テストや課題等、ペーパーレス化を図ることでSDGsにも貢献している。さらに、地域貢献についても、北区の活性化プロジェクト中で、鈴蘭台駅周辺のフラワープロジェクトによる美化活動や、「総合的な探究の時間」でまちづくり課と連携した取組が実施されており、十分に地域に貢献している。ただし、課題としては、本校のHPの内容の充実、そして保護者がもっと学校の様子がわかるような広報活動の工夫が必要である。最後に要望として、コロナ禍においても学習の活動の場の確保や学習の質の担保ができるように、さらに教職員が一同となって創意工夫をすることを望む。

5 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」の育成	①生徒が学習活動にスムーズに取り組めるよう、校内環境の整備・充実を図る。【総務部】	①学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	①すべての教室にエアコンが設置されていないため夏と冬の厳しい環境で授業がある。 ICT環境をさらに充実させる。【総務部】
	②教員が授業研究に費やす時間や労力を確保できるよう、校務全般を見直す。【総務部】	②学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	②ICT関連機器の管理担当者の負担が大きい。負担の軽減が必要である。【総務部】
	③昨年度から実施している3～4人での教員グループによる相互授業参観の取組みを継続し、お互いに意見交換することで、授業研究を推進する。【教務部】	③授業研究の参加者数により評価する。(目標:100%) 【教務部】	B	③グループを作りそれぞれで授業研究や協議を行ったが、校務や時間割の関係で一部できなかつたところもある。具体的な実施計画を立てるなど改善していきたい。【教務部】
	④今年度の1年生のBYODの実施を受けて、ICTを効果的に活用した授業研究に取り組む。【教務部】	④授業におけるICT使用率により評価する。 (目標:75%以上) 【教務部】	A	④ICTの活用について、教員が情報提示等に利用したり、課題の配信や回収をするなど積極的に活用していた。(100%) 【教務部】
	⑤基本的な生活習慣の定着を図り、夜遅くまでスマホを使用するなど遅刻・欠席の原因となる生活習慣の乱れを是正する。【生徒指導部】	⑤生活実態調査などで実態を把握しその変化を検証することで評価する。【生徒指導部】	B	⑤大多数の生徒は、遅刻・欠席が少なく、基本的な生活習慣が確立しているが、一部生徒に遅刻・欠席が常態化している状況が見受けられる。生活習慣確立のためのスマホの適切な使用方法等について今後も指導していく必要がある。【生徒指導部】
	⑥通級指導において、個に応じた教育支援を行い、苦手科目をなくし、得意科目の伸張を図る。【特別支援教育】	⑥学習活動報告(成績、活動内容)、希望進路の実現などから評価する。【特別支援教育】	A	⑥通級指導を通じて、学習や学校生活を円滑に出来ている。縦の連携を活かした外部機関からの支援により、多面的な活動が出来ている。【特別支援教育】
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体の育成	①防災学習を通して、防災意識を高め、自他の命を守る具体的な行動を考えさせ、訓練などを実施する。【総務部】	①避難訓練など防災学習実施後の学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	①他行事等と調整した上で実施計画を立てる必要があるとともに時間の確保が必要。【総務部】
	②生徒の健全な心身の成長を意図した、保健関連の講演会・研修会などを実施する。【総務部】	②講演会、研修会実施後の学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	A	②保健講演会等、各学年で実施されている。【総務部】
	③学年集会や全校集会における人権教育や「いじめ」に関する講話を通して、命を大切に、自他を尊重する態度を育成する。【生徒指導部】	③「いじめ」に関するアンケート調査を年3回実施し、その内容を検証することにより評価する。【生徒指導部】	A	③「いじめ」アンケートを年3回実施。いじめ項目にマークしている生徒に対しては個別に担任・学年が状況を聞き取り早期発見・対応・解決に向けた取組を行っている。【生徒指導部】
	④人権教育を通して人間性豊かな人材の育成を図る。【人権教育推進委員会】	④人権HR(講演会)後の生徒感想文(作文)の内容により評価する。【人権教育推進委員会】	A	④聴覚支援学校の先生を講師に招き、生徒が司会を行った講演会で、生徒の質問に答えていただく形で交流を行った。講演後の感想レポートで、生徒達の障害者に関わる人権意識の向上が確認できた。【人権教育推進委員会】

	<p>⑤県庁、県警、看護など各種インターンシップの参加を促進し、キャリア形成に資する体験活動を通じた機会を充実させる。【進路指導部】</p> <p>⑥卒業後の希望の進路に向けて、家庭での学習時間を確保し、学習時間の確立を図る。【進路指導部】</p>	<p>⑤インターンシップの参加状況や生徒感想文などにより評価する。【進路指導部】</p> <p>⑥学校評価アンケートなどにより評価する。【進路指導部】</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>⑤看護体験等に関しては、数名の希望者がいたが、受入れ側の病院からもキャンセルされた。元々、参加可能人数が限定的なシステムであるが、さらにコロナ禍の影響が長引き、生徒側も病院側も積極的に取り組める状況ではなかった。推進していくうえで難しさがあつたが、来年度以降は1, 2年生の参加も含み推進していく。県庁インターンシップに関しては参加希望者がいなかった。県警インターンシップについては、2名参加、2名が兵庫県警に採用が決定した。【進路指導部】</p> <p>⑥学校評価アンケート(生徒用)では生徒の54.1%が家庭における学習習慣(予習・復習)が身につけていると回答した。60.6%が定期考査や課題考査は、学習計画を立てて取り組んでいると回答したが、全体の45.9%が、日常的な家庭学習に取り組めておらず、全体の39.4%が定期考査などの直前であっても計画的に学習に取り組めていないことが分かった。62.3%が自分の進路について計画的に情報を集めていると回答し、進路について関心がある一方で、必ずしも日常的な学習には結びついておらず、将来への進路と結びついていない生徒が多いことが分かった。学習記録をつけるなど、日常的な学習の達成感を得られるよう促す必要がある。本校の進路ガイダンス、HR、総合的な探究の時間などの本校のキャリアプログラムにおいて、68.5%が自分の進路を考える上で役に立つと回答しており、今後一層充実させることが望まれる。【進路指導部】</p>
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
<p>(3) 国際理解、多文化理解を深め、世界的な視野を持った人づくりの推進</p>	<p>①国際コミュニケーションコース体験入学をはじめとした各種行事に積極的に協力し、広報活動を行う。【総務部】</p> <p>②学校行事(文化祭や修学旅行等)を通して、異文化に関心をもち、広い視野をもって考えるグローバル人材を育成する。【生徒指導部】</p> <p>③英語集中講座や留学生との交流を通して、自分の意見を論理的に伝える力を身につける機会を設ける。【コース・国際事業部】</p> <p>④外部講師による土曜英会話クラス、英検やGTECなどの資格取得の支援、スピーチ大会への参加、アメリカ、台湾及び韓国の高校とのオンラインセッションなどの取組みを通して、英語をはじめとする外国語教育を充実するとともに、国際理解教育を推進することにより、確かな英語力と英語コミュニケーション能力を育成する。【コース・国際事業部】</p>	<p>①各種行事实施後の参加者アンケートなどや、国際コミュニケーションコース志願者数により評価する。【総務部】</p> <p>②学校行事(文化祭や修学旅行等)の事後指導における生徒の感想により評価する。【生徒指導部】</p> <p>③生徒のアンケート、講座内での取組を通じて評価する。【コース・国際事業委員会】</p> <p>④学校評価アンケート、英検やGTECの検定結果により評価する。【コース・国際事業委員会】</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>①参加者アンケートでは概ね良い評価をいただいている。特に生徒による学校紹介は高評価である。【総務部】</p> <p>②コロナ禍の影響で修学旅行が海外から国内へと変更を余儀なくされたが、そのような状況の中でも生徒たちは石垣島での沖縄(琉球)文化を体験することができた。【生徒指導部】</p> <p>③英語集中講座に関して8名の外国人講師、留学生交流会にでは8か国の留学生が来校し、生徒の国際理解を深める機会となった。生徒のアンケートからも非常に満足できる取り組みとなった。【コース・国際事業委員会】</p> <p>④それぞれの活動において計画通りに実施できた。より深い学びとなるように事前・事後学習をより深くなるように充実した計画を立てる必要がある。【コース・国際事業委員会】</p>

	⑤生徒にグローバルな機会を提供するため、短期海外研修の代替プログラムを実施する。 【コース・国際事業部】	⑤参加者へのアンケートにより評価する。 【コース・国際事業委員会】	A	⑤短期海外研修の代替プログラムとして夏季休業期間に京都にて2泊3日のイングリッシュキャンプを行った。12名の生徒が参加し3日間英語漬けの日々を送った。最終日には発表において成長した姿を見せてくれた。 【コース・国際事業委員会】
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(4) 保護者・地域などとの連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりの推進	①学校ホームページなどを活用して生徒の様々な活動を校外に積極的に発信することで、生徒自身に活躍する喜びや応援し支えられている意識を持たせ、地域・家庭との連携につなげる。 【総務部】	①ホームページ閲覧数の変化及び学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	①ホームページによる発信は増えてはいるが、さらなる発信・充実が必要である。特に部活動の様子は各部によって差がある。今後も引き続き顧問に働きかける。 【総務部】
	②「総合的な探究の時間」や課外活動などを通して、地域に貢献し、地域を活性化する取組みを推進し、社会に貢献する人づくりを進める。 【生徒指導部】	②学校評価アンケートやふるさと貢献・活性化事業の参加者数、生徒感想などにより評価する。【生徒指導部】	A	②文化部（和太鼓部・ダンス部・編集部・吹奏楽部・福祉活動部など）を中心に地域の活動に参加し貢献することができた。【生徒指導部】
	③社会人講話を実施し、実社会で期待されている人材（人財）の要件を生徒、職員が共有する。 【進路指導部】	③学校評価アンケートなどにより評価する。【進路指導部】	B	③看護・医療、食・健康、経営、情報 IT、建築、幼児教育・保育系、通訳、消防・救急救命、国際協力の9つの分野の第一線で活躍する講師の方々から、職業と社会のつながりや社会人に求められる資質について学び、多様化する社会の環境に対して興味・関心を広げる機会を設けた。学校評価アンケート（生徒用）では約7割の生徒が「総合的な探究の時間」でのキャリア教育プログラムが自分の進路を考えるうえで役立ったと回答し、6割以上の生徒が社会に貢献できる人づくりのためのプログラムが充実していると回答した。今後もキャリア教育プログラムのあり方について全教職員が共有しながら、組織的・計画的に進めていく必要がある。【進路指導部】
(5) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実を図る。	①担当業務を明確化し、組織的に取り組むことで業務の効率化を図る。【総務部】	①学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	①各部署において業務のスリム化を図り、各部署間で連携して業務にあたるとともに、教職員の共通理解を図る。 【総務部】
	②生徒に対して、育成する力明確にして行事運営の見直しを図る。【総務部】	②学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	②行事を精選する必要もある。生徒が自ら考え行動するように働きかける。 【総務部】
	③先進取組校への教員派遣を実施し、職員研修会で報告機会を設け全職員への還元を図る。【教務部】	③職員研修実施回数により評価する。（目標：年1回以上） 【教務部】	A	③姫路西高等学校のデータサイエンスについて、教育課程及び内容の研修を行った。既存の授業や総合的な探究の時間、新学科設立に役立てる。【教務部】
	④生徒会・部活動・学年などと連携しながら学校行事や地域活動などに自主的/自立的に取り組む生	④各行事の事後アンケートや学校評価アンケートなどにより評価する。【生徒指導部】	A	④コロナ禍で活動が変更・制限される中、学校行事・地域活動を実施することができた。コロナ以前の状態で実施

	<p>徒を育成する。【生徒指導部】</p> <p>⑤学年と連携し、1学年「総合的な探究学習」で用いている「進路サポート」（キャリアノート）やキャリアパスポートを積極的に活用した体系的・系統的なキャリア教育を推進する。 【進路指導部】</p>	<p>⑤学校評価アンケートなどにより評価する。 【進路指導部】</p>	<p>ることは出来ていないが、自主的・自立的な取り組みがなされた。【生徒指導部】</p> <p>B ⑤学校評価アンケート（生徒用）では、約7割が、本校のキャリア教育プログラムが自分の進路を考えるうえで役だったと回答しており、3年間を見据えたキャリア教育に関する年間計画のもと、組織的、継続的にキャリア教育を実施することができた。教員はキャリアパスポートを生徒理解の一助として活用し、生徒は自己分析を深め、働くことの意義や多様な職業、自らの興味や資質に応じた多様な進路の可能性について、キャリアノートを活用しながら系統立てて理解を深めた。今後は、生徒に現在の学びと将来とのつながりをさらに考えさせるキャリア教育を推進していくことになる。【進路指導部】</p>
--	--	---	---